

平成29年度食育推進計画実績及び評価シート

	事業	内容	担当課	平成29年度実績	平成29年度評価
親と子の食育推進	食育に関する講座の実施	地域子育て支援センター・つどいの広場・子育てスポットすくすく広場・子育てスポットにおいて食育に関する講座を実施する。	子ども育成課	「食育相談」、「離乳食講座(時期別)」、「野菜の収穫」など、各広場で様々な講座を企画し、実施している。	利用者からは概ね好評であった。今後も利用者のニーズに合わせて各広場で企画し、実施していく。
	公民館等における料理教室や食に関する講座の実施	公民館事業としての料理教室などを通じ、参加者に食への関心を深めていただくとともに、健全な食生活への取組みを啓発する。	生涯学習課	料理教室などを通じ、参加者の食への関心を深める講座や、食をとおした家族・参加者のコミュニケーションを図る講座など、健全な食生活への取組みを行った。(参加者数は、見込) ●子ども対象 5施設、7講座、10回実施、のべ189人参加 ●親子対象 10施設、19講座、21回実施、のべ438人参加 ●一般対象 16施設、33講座、64回実施、のべ866人参加	平成29年度は、21公民館で59講座を開催することができた。前年度から取組館が2館増え、講座数も3講座増えており、積極的に取り組んでいると評価できる。また、対象を「子ども」「親子」「父子」「子どもと祖父母」「男性」「女性」などと細かく設定しているため、それぞれの対象者の課題・ニーズに合わせた多彩な内容の講座を開催することができ、対象者が参加しやすいような工夫を行うことで多くの方に参加いただくことができ、大変好評である。講座終了後も継続して学習を続ける自主グループも結成された。なお、この他、連続講座のなかでも食に関して学習する回を設けるなど、幅広い取組ができています。今後も、食育ネットや食に関する団体等とのつながりを活かしながら引き続き取組を進める。
	各種健康づくり教室の実施	妊婦・乳幼児・成人を対象に各種健康教室において、栄養・食生活に関する知識と情報を提供する。	健康増進課	母親教室や離乳食教室、にこにこ奈良ごはんや健康NARA講座、出前講座を通じ、さまざまなライフステージを対象に栄養・食生活に関する知識と情報を提供した。12月末までの実績として、母親教室160名(食事の講話がある回のみ)、離乳食教室441組(うち個別相談は95件)、ティーンズママの会3名、にこにこ奈良ごはん7回のべ844名(うち1回小学生親子対象で実施)、出前講座3回65名、健康NARA講座9回227名の参加者があった。	妊婦・乳幼児向けの健康教室は参加人数の減少が見られる。講座に参加していない市民へのアプローチとして、ホームページに離乳食の進め方や目安等をまとめ情報提供している。また妊娠期や授乳期に必要な食事量や栄養素がイメージできるよう啓発資料を変更した。成人対象の健康教育では、にこにこ奈良ごはんや健康NARA講座の参加者数が増加した。ポイント制度の導入や、講座の認知が上がってきたことが要因と考えられる。しかし、依然壮中年期の参加者が少ない。この時期の健康づくりは将来の疾病予防に繋がると考えられることから、壮中年期層に対する健康づくり教育・啓発等アプローチ方法を検討したい。
	乳幼児健康診査時栄養指導の実施	成長過程で生じる食に関する問題や個々の不安を解消し、正しい食習慣の確立を支援するため、個別栄養相談を実施する。発達時期に合わせた栄養・食生活情報を提供する。		12月末現在、1歳7か月児健診受診者1798名のうち集団指導は全数、個別相談は99名に実施。3歳6か月児健診では受診者1786名のうち60名に個別相談を実施した。	1歳7か月児健診受診者への集団指導では、口腔機能を育てるための食形態や正しい姿勢の内容を取り入れた講話を行っている。3歳6か月児健診での肥満児の割合は平成27年度は1.9%、H28年度は1.5%であったため今後も経年的に評価をとり、講話内容等に反映させていく。
保育所・幼稚園での食育推進	保育における食育推進	食育指導の目標を設定し、保育所及び認定こども園における食育の推進を図る。	こども園推進課	「奈良市立こども園カリキュラム」に基づき、各園が各年齢別に食育目標を設定し、取り組み内容および保育者の支援内容を記した食育計画を作成した。	各園が現場に応じた食育目標を設定し、食育計画を作成、実施することができた。
		食に関する指導計画を作成し、望ましい食習慣を身につける保育を展開する。	こども園推進課		
	PTA、保護者会との連携による研修会の開催	PTAや保護者会と連携して研修会を開催し、家庭での適切な食習慣の実践を支援する。	こども園推進課	各園で地域の人々や保護者を対象とした給食の試食会を実施した。	給食の試食会では、咀嚼力や味覚の発達に応じた食材の固さや味付けを体感してもらい、給食への理解深めてもらうことができた。
	保育所職員研修	職員を対象にした研修により必要な知識や情報を習得するとともに各園の取り組みについて情報共有を行い、各職員の専門性を活かした食育を実践する。	こども園推進課	他機関が実施する研修受講及び一部の園において園内での研修等を実施した。	食物アレルギーに関する研修や、来年の保育所保育指針の改定に伴う、保育の中での食育の位置づけについて情報提供等があった。研修で実践に活かせる知識や情報を得た。

保育所・幼稚園での食育推進	保育所給食を通じた食育啓発	保護者に配布する保育所給食献立表や園だよりで食事バランスや食文化等の食育を啓発する。	こども園推進課	毎月配布する給食献立表や園だより、年に4回配布する食育だよりを通じて保護者に給食使用食材や望ましい食習慣の情報を発信した。また、保護者の給食への理解を深めてもらうために園内で給食の実物展示や掲示を行った。	食育だよりには、人気の給食献立のレシピ等を掲載し、より実践的な情報提供ができた。
	米飯給食の実施	米飯給食などを通じて、栄養バランスのとれた日本型食生活を啓発する。	こども園推進課	米飯給食を通じ、主食・主菜・副菜の揃った日本型食生活を保育給食で実施した。	米飯給食を通じた主食・主菜・副菜の揃った保育所給食を実施することで視覚的な栄養バランスの啓発を実施することができた。奈良県産の米を積極的に使用することで地産地消を推進できた。
	保育所における行事食の実施	日本の伝統的な食文化や行事食を給食に取り入れ、食体験を進める。	こども園推進課	七夕や正月等の行事食や「のっぺい汁」や「もみうり」等の奈良の郷土料理を提供した。保護者へは献立表や食育だより、また子どもたちへは給食時間に保育教諭から伝えられるように給食日誌に行事食・伝統食について記した。また今年度は11月24日の「和食」の日に和食給食を提供し、リーフレットを各家庭に配布した。	保護者や園児が行事食や奈良の郷土料理、和食について知ることができた。また行事食を取り入れることで季節を感じる給食を提供することができた。
	菜園活動体験保育及びクッキング保育の実施	園庭などで栽培収穫した野菜やいも等の食材を使い、園児が調理する楽しさや食物に感謝しながら食べる喜びを味わう保育を行う。	こども園推進課	各園で年齢別に作成した食育計画に基づき、園庭で育てた旬の食材を調理したり、給食に取り入れて喫食した。また、アレルギー児の増加のため、使用食材を計画段階でアレルギーとならないものにする事及び衛生管理について課より助言を行い実施した。	園児が食材を栽培、収穫、調理するという過程を体験することにより、食材そのものや給食に係る人、調理や食べることへの関心を高めることができた。みんなで作った食事を一緒に食べることで「楽しく食べる」目標を達成することができた。
学校での食育推進	学校における食育推進	学校における食育推進	学校教育課	学校ごとに食育推進年間計画を立て、推進。 各教科等のカリキュラムに食育の視点を取り入れた授業を実施 ゲストティーチャーを招いた学習の実施 校外学習(大和茶研究センター、環境整美工場等)の実施	学校の特色を活かし、教科等と関連付けた食育の取組を進めることができた。 奈良市教育協議会(食育推進部会)において、食育実践事例集を作成し、各学校での取組を共有することができた。 外部指導者を招いたり、現地学習に行ったりすることで、学習の幅が広がった。 教員が入れ替わっても持続可能であるためにはカリキュラムを蓄積する必要がある。
	教科指導における食育推進	教科指導における食育推進			
	栄養教諭や学校栄養職員などを中心とした食育推進	栄養教諭や学校栄養職員などを中心とした食育推進	保健給食課 学校教育課	【保健給食課】 栄養教諭・学校栄養職員による食に関する指導を実施した。(小学校の実施率98%)  【学校教育課】 各教科等でのTT授業 教材や資料の提供 給食指導 栄養指導(アレルギー、スポーツ栄養、肥満 等)	【保健給食課】 昨年度に引き続き実施。 栄養教諭・学校栄養職員の未配置小学校での実施率を大幅に上げることができた。(H28年度85%→H29年度97%)  【学校教育課】 栄養教諭や学校栄養職員の専門性を生かし、学級担任や教科担当と連携しながら、授業展開や指導を行うことができた。 今後も、学級担任や教科担当等と連携し、児童生徒の関心が高まるような機会や学習内容を提供していきたい。
	PTA、保護者会との連携による研修会の開催	PTA、保護者会との連携による研修会の開催	学校教育課	保護者対象への給食試食会	保護者対象への給食試食会を実施した。 保護者が給食の様子を参観。 指導主事が学校保健委員会で講演した。
	食育教育の理解や普及、啓発を目的とした授業参観、懇談会の実施	食育教育の理解や普及、啓発を目的とした授業参観、懇談会の実施	保健給食課 学校教育課	学校給食試食会を実施し、学校給食についての説明や食育の講話を行った。	各校の状況に応じて、試食会の際に給食参観や給食室見学も行って、保護者からは「給食を通して食の経験が増えた」「食べることの大切さを強く感じた」といった感想が聞かれた。
夏休みに「学校給食親子料理教室」を教育センターで実施。午前の部・午後の部ともに20組47名の参加があった。				教育センターで実施した親子料理教室は、「家では親子で料理をする機会がないのでよかった」「奈良の食材を知れた」「だしを家でもとろうと思った」等の感想が聞かれた。	

学校での食育推進	職員研修	食に関する指導の公開授業及び研究協議、講演会などを行い、食育指導に関する教職員の指導力向上に努める。	学校教育課	奈良市教育協議会(食育推進部会)において、研究授業事前指導、授業研修、研究協議での指導助言。	次の3本の研究授業、研究協議、及び事前指導を行った。いずれも栄養教諭、栄養職員と教員とのTT授業実施。教科等のねらいにせまる食の観点を取入れた授業展開であった。 ・小学校 2年生 道徳「命の尊さ」、 ・中学校 2年生 家庭科「食品の選択」、 ・中学校 特別支援学級 自立活動「さつまいもを育てよう」
	指導主事による食育指導への指導助言	学校・幼稚園の要請に応じ、指導主事が食育指導の改善、充実、発展のために指導助言を行う。			
	地元食材を使用した学校給食の実施	新鮮な食材の確保と地域理解(自然、食文化、産業等の理解)を深めるために、学校給食における地元産の農産物及び加工品の使用を推進する。	保健給食課	奈良県産のほうじ茶・鶏卵・金ゴマなどの食材、かぼちゃの大和ポークフライやみかんジャムなどの加工品、麦縄などの特産品を使用した。今年度より県産の牛肉を使用再開する予定。昨年度に引き続き市内で製造された調味料、奈良市産米、大和まなや片平あかねなどの大和野菜・大和茶も使用した。	地元で栽培や製造された食材を使用するとともに、「食べ物紹介」指導資料を作成して給食指導に活用。 郷土料理や伝統食、地域の行事と関係する行事食の提供も行い給食指導を実施できた。
	米飯給食の実施	米飯給食などを通じて、栄養バランスのとれた日本型食生活を啓発する。	保健給食課	週5回の給食のうち、米飯給食を3回実施。 給食室で炊飯する自校炊飯を新規中学校給食実施校で導入。	中学校給食全校実施し、自校炊飯の拡大を図ることができた。
	給食だよりを通じた食育啓発	保護者などに対して望ましい食習慣や健全な食生活を啓発するために、学校給食献立表、食育に関する啓発記事を掲載した給食だよりの配布に努める。	保健給食課	学校給食家庭配布献立表の給食だよりを通じて保護者に向けて食育啓発を行った。また、各種指導資料(食べ物紹介・食に関する指導資料・放送資料)を用いて児童生徒に向けて食育指導を行った。	年間の指導計画に基づいて、家庭配布献立表や各種指導資料を作成し、給食を教材として活用して指導することができた。
生涯を通じた食育推進	「食育の日」「食育月間」の普及啓発	「食育の日」、「食育月間」に関する啓発記事をホームページ・ならしみんだよりに掲載するなどにより食育の周知を行う。		平成28年度に引き続き6月の食育月間の期間、市立図書館で食に関する図書を設置。本庁・はぐくみセンターでの啓発展示。医療政策課ツイッターでの情報発信57回。食育月間のモデル的な団体の取組みをホームページ掲載。まちかどトーク「身近な食育」テーマに依頼を受けて5回実施。食育月間に「食育フェスタ2017」を開催。	ホームページ、SNS、図書館の場を活用した情報発信ができた。ツイッターは食育ネット連絡会議で大学生からの要望を受け、こまめな発信に努めた。食育月間のフェスタ開催は次年度は計画策定が優先されるため休止の予定。
	特定給食施設指導	健康増進法に基づく特定給食施設などの施設管理者及び給食関係者に対し栄養改善などの指導に努める。		栄養管理報告書による調査1回(6月)。研修会2回(6/21、7/14)開催。病院・高齢者施設を対象に、配食サービスに関する国の新しいガイドラインを説明しホームページに資料を掲載。保育園・こども園・私立学校等に対し市教委の異物混入対策マニュアルや食品衛生のポイント、食育の実施状況について情報提供。	新しい情報をタイムリーに事業者に提供できた。有料老人ホームなどの高齢者施設が急増している状況。集団研修での限界もあり、今後は分科会形式にするなど必要に応じて工夫が必要である。
	食育推進イベントの開催	食育の様々な分野を体験できるイベントを関係団体と協働で行い、啓発をする。	医療政策課	食育フェスタ2017開催。昨年を上回る15団体に協力いただき市民980名が来場。市民の身近な場所である飲食店で食について体験したり交流するイベント「食育カフェ」2回実施。「弁当の日」講演会・調理実習を共催で開催。講演会215名参加。	食育フェスタ開催をきっかけに複数の新規団体が食育ネットへ参加された。食育フェスタ参加団体へアンケートを実施した結果、90%の団体が「参加してよかった・まあまあ良かった」と回答。 「弁当の日」イベントではNPO法人、地元ロータリー、関係者らの協力を得て新聞に複数回掲載いただくなど広報に成功した。参加者アンケート結果から講演と調理実習を組み合わせたことで家庭での調理に関する実践が促されたことがわかり、市民満足度も高かった。
	食育協働ネットワークの構築(新・計画P10)	食育の推進において、家庭や保育・教育関係・食品関連事業者などが相互に連携し取組みをすすめることができるよう、ネットワークを構築する。		46団体参加(H29.12月末現在)食育セミナー・交流会2回実施(8/22、2/27予定)食育メールマガジン月1~2回・各回638件送付。食育だより1回作成予定。しみんだより「食育コラム」掲載を開始、庁内関係課及び食育ネット参加団体に記事を依頼。食育ネットの組織化を目的に連絡会議を3回開催(4/14、1/9、3月予定)各団体の29年度取組みを会議で共有し、市ホームページにて公開。農林課、近畿大学ヘルスチーム菜良と協働で野菜のレシピ集を作成し市ホームページに掲載。	セミナー・交流会:アンケートによる評価を実施した結果、市民満足度が高く、実施後に資料を見せてほしいと窓口に来られる方が複数おり高齢者の栄養・食生活に関する関心の高さが伺われた。食育コラム:市民がコラムを見て食推や食文化に関する問い合わせが複数あり食育ネットを周知する機会となった。

生涯を通じての食育推進	地産地消推進のためのイベント開催	新鮮な食材の確保と地域理解(自然、食文化、産業等の理解)を深めるために、イベントなどを通じて地元産の農産物及び加工品の使用を推進する。	農林課	毎土日祝日にJR奈良駅旧駅舎軒下にて農業者団体が生産物を直売する「旬菜メルカート」にて、近畿大学ヘルスチーム菜良と協働しレシピの配布を行った。また、イベント主催者と農業者団体を結びつける「出張メルカート」や地域団体が主体となり直売を行う場合に補助金等を交付する「ミニ直売所設置補助金」などに取り組んだ。	奈良市産の農林畜産物を直売する場の増加・維持により、地産地消及びPRを促進できた。また、近畿大学ヘルスチーム菜良と協働したことにより、消費者に対し食材に関する知識の提供やレシピを提供することができた。
	公民館等における料理教室や食に関する講座の実施(再掲)	公民館事業としての料理教室などを通じ、参加者に食への関心を深めていただくとともに、健全な食生活への取組みを啓発する。	生涯学習課	料理教室などを通じ、参加者の食への関心を深める講座や、食をとおした家族・参加者のコミュニケーションを図る講座など、健全な食生活への取組みを行った。(参加者数は、見込) ●子ども対象 5施設、7講座、10回実施、のべ189人参加 ●親子対象 10施設、19講座、21回実施、のべ438人参加 ●一般対象 16施設、33講座、64回実施、のべ866人参加	平成29年度は、21公民館で59講座を開催することができた。前年度から取組館が2館増え、講座数も3講座増えており、積極的に取り組んでいると評価できる。また、対象を「子ども」「親子」「父子」「子どもと祖父母」「男性」「女性」などと細かく設定しているため、それぞれの対象者の課題・ニーズに合わせた多彩な内容の講座を開催することができ、対象者が参加しやすいような工夫を行うことで多くの方に参加いただくことができ、大変好評である。講座終了後も継続して学習を続ける自主グループも結成された。なお、この他、連続講座のなかでも食に関して学習する回を設けるなど、幅広い取組ができています。今後も、食育ネットや食に関する団体等とのつながりを活かしながらか引き続き取組を進める。
	朝食を中心とした生活習慣に関する情報の発信	生活習慣の改善などや家庭における健康づくりをホームページ・ならしみんだより・リーフレット等による情報発信する。		乳幼児時健診同封のリーフレット配布や母親教室での時短レシピの提供など行い、情報発信を行っている。	前年度に引き続き情報発信を行っている。今後は母親教室のアンケートや乳幼児健診などの問診票より朝食摂食状況を把握し、配布資料の見直しを図る。
	各種健康づくり教室の実施(再掲)	妊婦・乳幼児・成人を対象に各種健康教室において、栄養・食生活に関する知識と情報を提供する。	健康増進課	母親教室や離乳食教室、にこにこ奈良ごはんや健康NARA講座、出前講座を通じ、さまざまなライフステージを対象に栄養・食生活に関する知識と情報を提供した。12月末までの実績として、母親教室160名(食事の講話がある回のみ)、離乳食教室441組(うち個別相談は95件)、ティーンズママの会3名、にこにこ奈良ごはん7回延844名(うち1回小学生親子対象で実施)、出前講座3回65名、健康NARA講座9回227名の参加者があった。	妊婦・乳幼児向けの健康教室は参加人数の減少が見られる。講座に参加していない市民へのアプローチとして、ホームページに離乳食の進め方や目安量等をまとめ情報提供している。また妊娠期や授乳期に必要な食事量や栄養素がイメージできるよう啓発資料を変更した。成人対象の健康教育では、にこにこ奈良ごはんや健康NARA講座の参加者数が増加した。ポイント制度の導入や、講座の認知が上がってきたことが要因と考えられる。しかし、依然壮中年期の参加者が少ない。この時期の健康づくりは将来の疾病予防に繋がると考えられることから、壮中年期層に対する健康づくり教育・啓発等アプローチ方法を検討したい。
	食生活改善推進員支援	食育推進のため、食に関する正しい知識をより多くの人に普及する体制の充実をめざして、食生活改善推進員対象の研修会や活動に対する専門的アドバイスなどを行う。		市内全5か所の公民館等で毎月実施している調理実習の他に、企画チームを編成し、活動支援を行った。企画チームは「食育講話チーム」「レシピ開発チーム」「広報研修チーム」「友歩会」に分かれ、会員がいずれかのチームに加入することとした。食育講話チームは幼稚園等からの依頼を受け、園へ出向き親子対象に講話を実施している。(12月末現在6か所実施。)レシピ開発チームは地域での自主活動や公民館等からの依頼による調理実習でのレシピ作成、広報研修チームは食推のPR媒体の作成やスキルアップのための研修企画を行った。各企画チームが定期的実施する会議の場で、課題や活動内容を共有した。その中で、ボランティア活動で必要な食に関する知識や奈良市の健康課題について理解を促し、奈良市の実情に合う活動ができるよう支援した。	食育講話に関しては、幼稚園等に通う園児と保護者を対象にし実施していることから、壮中年期の健康づくり啓発の場になっていると考えられる。食推ボランティア誰もが食育講話活動が実施できるよう、内容の共有・知識の提供・伝達のスキルアップを図る必要がある。調理実習を通じた活動も多いことから、奈良市の健康課題や食に関する正しい知識を定期的に提供し、実習内容や方法に活かせることができるよう支援していく。食推の活動の認知度を向上するために、SNSの活用を提案したい。今後ボランティア養成講座を実施し、地域の身近な場で食に関する正しい知識を伝える人を増やしたい。
食の安全・安心に関する情報提供	食品のリスクコミュニケーションに関する説明会などを実施し、食品の安全性に関する情報の提供を行う。	生活衛生課	食品衛生講習会を事業者や市民向け等に計19回開催(見込み)。広報車による食中毒予防の街宣、食中毒予防街頭キャンペーンの実施、啓発グッズの配布、市役所・はぐくみセンターにおける食中毒予防のパネル展示、しみんだより・ホームページ上での食品安全に係る啓発を行った。また、大学生を中心に発生が多いカンピロバクター食中毒について、市内の大学に対しカンピロバクターの啓発ポスターを配布(平成30年1月頃配布予定)	平成30年に新しくHACCP(ハサップ)による衛生管理制度の導入が国から義務付けられるにあたり、HACCPによる衛生管理についての事業者に対する講習会を多く開催した。	